

第9回学習会を，平成20年11月7日（金）19：00～20：00教育センターにて行いましたので報告いたします。

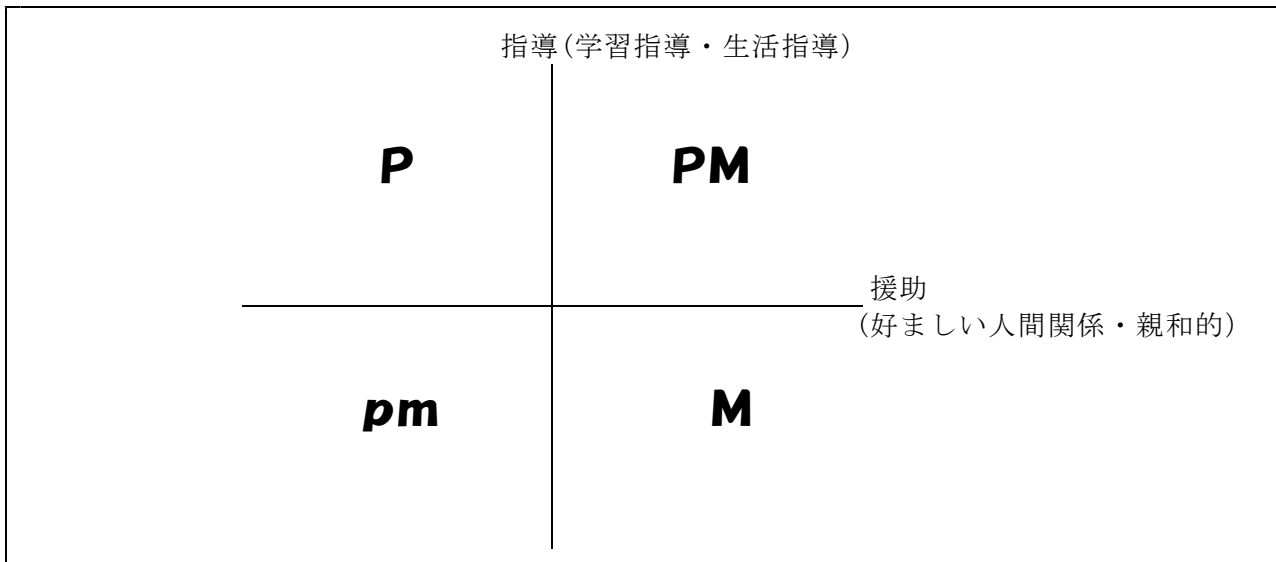
第九回目の内容

講師 重枝一郎先生（千代中学校教諭）

- 1 教師の心構えと技術②
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動

1 教師の心構えと技術 ②

○リーダーシップスタイル（PM理論）



※前回の学習内容とオーバーラップしながら，筋を通した考え方を提示する。

リーダーシップと言えば，教師に限らず学級委員や班長，部長などにも共通した考え方だが，その人のタイプはどうなのか？

自分のタイプは→自分を知る

他人のタイプは→他者を知る

自分はこう思われている→自己盲点

PM理論〔P（パフォーマンス：指導面優位）とM（メンテナンス：援助面優位）〕

教師のリーダーシップスタイルに限って言えば・・・

理想的なのは ①PM型・・・細やかな気遣いの中に強い指導性をあわせもつ教師

次に ②M型・・・強い指導はしないが温和で気遣いの細やかな教師

その次に ③P型・・・一貫してきびしく指導する教師

最悪は ④pm型・・・放任型教師（放任・なれあい・一貫性なし・計画性なし）

〇2つの戦略（戦略）

(1) 個人的な関係をクラス全体に広げていく学級経営

M → P

(2) 形の同一化からリレーション形成をめざす学級経営

P → M

※ (1) M → P・・・まずは人間関係。そしてルール。

(2) P → M・・・まずはピシャッと形をつくる。マナーやルールをつくる。

福岡市のほとんどの学校でやっている方法である。

両輪でやっていくことが大切。ときにP, ときにM。実態に合わせて強める。

福岡市のやり方はほとんど(2), 他県は(1)が多い。

(2)は昔ながらのやり方。福岡市は保護者からのクレームがそんなに多くないので(2)でやれているところがあるが、勉強するなら(1)。

(1) M → P

① 2人組・・・何人かで活動するそのやり方を共有させる。

教師の対応は「教示型」 手本を示す。 強いM, 適切なP

※個人的な関係をつくりながらもデモンストレーションを入れて「教示的」に。もちろんPも適切に入れながら。

② 4人組・・・動くルール, システムを定着させる。まとまる方向づけをする。

教師の対応は「説得的」 納得させる説明。

③ 小集団 → 中集団・・・集団として活動した経験を積み重ねる。

教師の対応は「参加型」 サポート。花をもたせる。

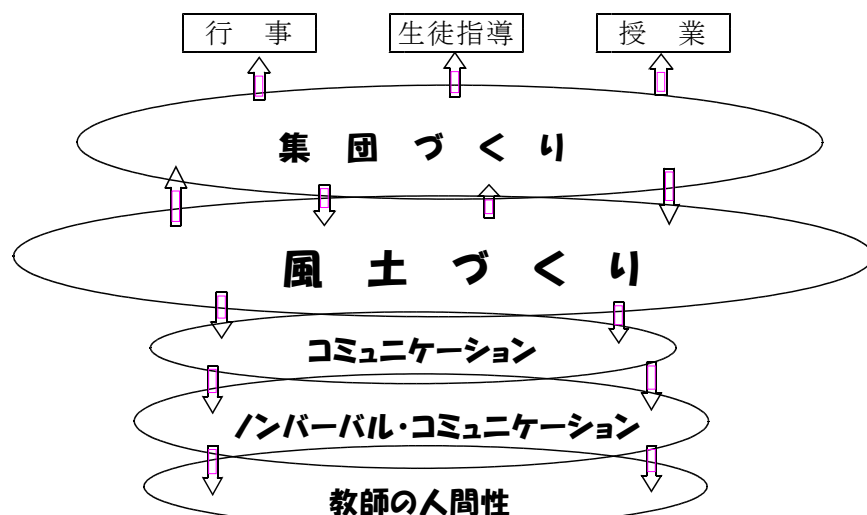
④ 中集団 → 大集団・・・自分のやっていることが全体にどうつながっているか理解させ、工夫させる。

教師の対応は「委任的」 まかせる。アドバイス。

※ただ、やらせてもダメ！集団としての活動を、徐々に自立させるというビジョンをもって行う。

①～④を一巡するだけではなく、細かく繰り返す。その取り組みをつなげながら、振り返らせながら、行事につなげていく。延長線上に行事があるという考え方である。このことは、第1回目の風土会の内容につながっている。(図1参照)

図1
「集団づくり」



(2) P→M

③, ④からスタートできる状態なので, エンカウンター的エクササイズを取り入れやすい。しかし, 人間関係の積み上げが少ないので, ①②の段階を取り入れながらすることも大切。形の同一化で終わってしまうと集団は退行していくこともある。一貫して同じことをしていればよいのではない。



学級の状態と教師の対応方法のマッチングが大切

※意外に①②ができていない, 薄っぺらい関係であることも多い。
4月の学級の状態はよいのに, 3月になったら退行している場合がある。それは系統だった取り組みを行っていないからである。学級集団は閉鎖集団(選べない・出られない)である。適切な刺激を与えないとストレスがたまる。
目指すのは集団の成熟であり退行ではない。

<p>集団の成熟 (クラスの持ち味が組織化してくる)</p> <p>凝集 → 統合 → 変化 → 組織化 → リーダーシップの分散 (親しく) (ひろがる) (協力) (ふさわしさ)</p>
--

<p>集団の退行</p> <p>解体 → 分裂 → 安定化 → 混沌化 → リーダーシップの拡散 (ギスギス) (はなれる) (完璧にはなれる) (いじめ) (自己中心的)</p>

○自分を知る

自分のリーダーシップ行動は, 生徒にどのように受け取られているか。自分の存在はクラス, 生徒にどのように影響を与えているか。



自己点検する勇気をもって!!

(その勇気を一人で歯をくいしばって喚起するのもいいけど, できればお互いを認め合える教師仲間であることが大切。ザ・ベストを強いるよりも, みんなのマイ・ベストを求めよう)

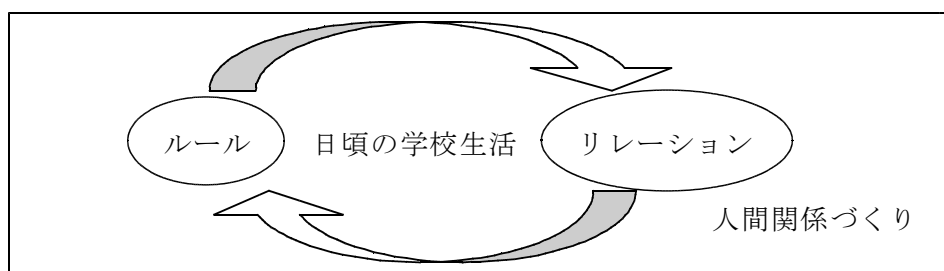
※P→Mの方がやりやすい。M→Pは教師の力量が必要であり, 勇気がいる。ビジョンがあるから成せる技でもある。
また, 自分のリーダーシップ行動は, 何となく生徒からP (M) と思われているのではないかという「思いこみ」では決められない。要は生徒が自分をどう見ているか, どのように受け取られているかである。自己点検する勇気をもって! 形の同一化で終わっていないか。先生が恐れからきいておこうになっていないか。

2 実践ビデオ紹介

<p>「お誕生日おめでとう」 ルールとマナー・グループの活動に慣れる (③)</p> <p>班に1本だけペンを準備する。誕生日を祝っている一枚の絵を班に1枚配る。同じような絵だけど, どこかが違う絵を廊下に貼る。それを一人だけ見に行き, どこが違うかを見つける。見に行ったときには絶対にしゃべってはいけない。しゃべると減点。違う部分にペンで印をつける。ルールを守らせながらリレーションづくりをするエクササイズである。</p>

ビデオは、重枝先生のクラス（千代中学校2年生）でエクササイズを行った様子です。重枝先生によると、千代中学校の2年生といえば、普通はとても大変な状態だということです。しかしビデオの中の学級の様子は、落ち着いた中にも活気がある、とても良いムードです。

まず、イントロの部分が紹介されました。黒板に下記の図が書かれています。



この図について、重枝先生は生徒に説明しています。「ルールというと、それにしばれている気がするけど、言い方を変えればマナーとも言うが、マナーを守っているからいろいろなことがうまく進んでいく。今だって先生の話をちゃんと聞いているから、先に進んでいる。リレーションというのは人間関係づくり。この2つが学校では絶対大事。学校や人が集まる場所には、必ずルールやマナーがある。これがちゃんとあれば、リレーションもちゃんとできる。どっちが先かは、ニワトリが先かたまごが先かと同じようなもの。ルールとマナーがあるから安心感がある。その安心感に守られて、言いたいことが言える。人間関係がつくられていく。」

50分の授業の内、最初のイントロダクションでは10分間も重枝先生は熱く語っています。それくらい、「ルールとリレーション」の話は重要な話です。たとえ話をたくさん入れて、ルールを守らないと楽しくないということを徹底します。イントロ次第で、その後の活動がまるで違ってくるのです。

この「お誕生日おめでとう」は、前回の風土会での体験エクササイズだったので、たくさんの先生が実践されたことでしょうか。また、今後実践しようと思っている先生方もいらっしゃるでしょう。その時の参考にしてほしいのですが、授業の流れで重要なのは・・・

- ①イントロダクション
- ②活動の途中で、適切な刺激を与えること（モチベーションを上げるための新たな刺激）
- ③シェアリング（まとめ）です。

ビデオを見ると、重枝先生は生徒の活動や様相を見ながら、各班に適切なアドバイスを行っています。班にペンを1本だけ使わせることも、班に配られている1枚のメモ用紙の大きさも、重枝先生の意図があつてのことです。各班では、生徒達が頭をつきあわせて活動する姿が見られました。班員が協力し、集中している様子が伝わる光景です。全員がペンを持っていて、メモ用紙が各自に配られていたり、もっと大きなサイズの紙だと、こうはなりません。

このエクササイズのおもしろいところは、エクササイズを行っていく中で、自分たちなりの「ルール」がつくられていくことです。1人が何度も見に行くのは要領が悪いので、自然に見に行く順番が決まったり、お互いに見てくる範囲を分けたり・・・。それについては、エクササイズの途中でタイムリーに「刺激」として与えるのが重要です。重枝先生は、班ごとにアドバイスを与えるのとは別に、全体の活動をいったん止めて、話をしていました。黒板の板書にはこう書いています。「ひとりでは見えないことが必ずある」

また、モチベーションをあげるために、答えの数は22もあるということも途中で伝えます。生徒達は、まだみつけない部分がたくさんあることに気づき、やる気を増して活発に活動を始めました。

最後の「答え合わせ」の時は、活動中の活発さとはうって変わって、落ち着いた雰囲気です話を聞いています。その「メリハリ」はさすがです。「ルールが定着している」と感じさせる場面でもありました。千代中の2年生と言えば・・・という話からすれば、どれほど日頃からビジョンをもって実践を積み上げてこられたのかがわかる、非常に説得力のあるビデオでした。

「ジョハリの窓」 お互いが教科書・自己盲点・つながりに気づく (①, ②)

心理学者のジョセフとハリーの2人が考案したので、2人の名前をくっつけて「ジョハリの窓」という。「4つの窓」ともいう。ねらいは、友達という鏡に映し出された自己像を見ることが自分をみつけ、今後の行動により変化をもたらすこと。まずは、自分の長所・短所を自分で書く。次に友達から長所・短所を指摘してもらう。

- ①開放の窓・・・自分も知っていて他人も知っている長所・短所
- ②盲点の窓・・・自分は知らず、他人は知っていた長所・短所
- ③秘密の窓・・・自分は知っているが他人は知らない長所・短所
- ④未知の窓・・・①～③に入らない、自分とはまったく違う自分
もしかしたらあこがれの人物像をイメージするかも

重枝先生は、今の2年生を昨年から受け持っているのですが、このエクササイズではじめて人の短所を書かせることをしたそうです。やっと、そのようなエクササイズができるという判断からでしょう。実際に行ってみても、今までの積み上げがあるので、相手を思いやった感じで書いていたそうです。

ビデオでは、イントロダクションで「お互いが教科書」という話をされていました。黒板の板書は、「お互いが教科書」「自己盲点」「つながりに気づく」です。

「人は自分で自分のことを悟って、自分とはこんな人間だとわかっているではありません。君ってこうだねとか、相手を見て気づくことからフィードバックをもらって自己を確立しているのです。今日のエクササイズにしても、こういう時間はいつでもとれるわけではありません。意味は必ずあります。それに気づくか、気づかないか。それでは、〇〇くんという教科書を見て、何を学びますか？」

1人の男子生徒が指名されました。「長所は、おもしろいところ。これはいけないだろうというところは・・・」と発表できました。次に別の生徒が指名されました。「重枝先生の長所は？」なかなか答ええない生徒に、すかさず重枝先生の一言。「そんなに悩むことないだろう。悩んでること事態、傷つくんだけど・・・」自然にクラスで笑いがおきています。「おい、無視?」「それじゃ、短所は?怒らんけん。おいおい、急に積極的になるなよ」再び笑いが・・・なごやかな雰囲気です。教師と生徒のリレーションづくりの場面でもあります。また、これがデモンストレーションにもなっています。

「あの人にはいいところもないし、教科書にならない」と生徒が言う場合は、「その人はとてもハイレベルな教科書。難しい問題集なんだ。あなたが解けないだけ。難問を避け、簡単な問題ばかりしていても力はつかない。」と重枝先生は教えるそうです。この発想が楽しいです!

「自己盲点」に気づかせてくれる集団というのは、とてもありがたいもの。それは「つながりに気づく」ことでもあります。自分の可能性は「気づき」の中から生まれるのであり、だからこそ人と交流するのです。それが「学校」です。

「なぞのマラソンランナー」 No pain, No gain (②, ③)

本日の実践：**ねらい「積極的に貢献する力・タイムリーなコミュニケーション力」**

合図：せ～の「できた」・「バンザイ」・「イエーイ、拍手」

マラソンをしている人の絵が描かれた情報カードを1人1枚持たせ、そのカードを人には見せずに情報を出し合って、先頭から数えて4番目に走っている人のゼッケン番号を当てる。25分の制限時間を設定。自分が持っている情報の中で、今、何が大切かを判断し、班の進行状況に応じて、必要な情報をタイムリーに提供できる力が必要。また、班の中で自分の役割をみつけ、積極的に課題解決に向けて貢献できる力をつける内容。

イントロダクションでは、トランプの「ババ抜き」の話をされています。自分の持っている情報カードを人には絶対に見せてはいけない。ババ抜きでは、ババを見せたらおもしろくない。ババは隠す。それと同じ。そして「ルールとリレーション」の図を板書して、話をされています。「ルールとリレーション」の話も、その他の内容でも同じですが、生徒に一度話をしたか

らといって、それがすぐに浸透するとは限りません。根気強く、機会があるごとに何度も繰り返し話をすることは、とても大切なことです。また、いろんな場面で関連づけることも意義あることです。

また、今回のエクササイズは「上級者向け」のなかなか難しい内容です。アメリカのことわざ「No pain, No gain = 苦しみをなくして得るものなし」をたとえに、生徒のチャレンジ精神を刺激していました。重枝先生は、「No pain」の部分を変えて「No fun」に変えて話すこともあるそうです。「苦しみをなくして得るものなし」

7人グループで行うエクササイズなので、まず「グルーピング」を行います。日頃からグルーピング・トレーニングを行っているため、整然と7人組を作っていました。しかし、男女に分かれたグループになっていたため、男女のバランスを考えたグルーピングをもう一度行ってエクササイズ開始です。

まず、7人グループのリーダーを決めて、先生の所に集まります。そこでルールを説明します。しかし、リーダー以外の生徒達もシーンとした雰囲気です。先生はつぶやき声で話しているにも関わらず、他の生徒も一緒に聞いているような落ち着きのある雰囲気です。この雰囲気は、日頃からの積み上げの成果でしょう。

リーダーがもどって、班員にルールを説明したら活動開始です。4番目のゼッケン番号がわかったら、班全員で合図します。どんな合図でもいいのですが、それも自分たちで決めます。そこにも、「ルールとリレーション」の仕掛けがあります。

なかなか答えにたどり着かないと、生徒達のモチベーションが下がってきます。そんな時にタイミング良く刺激を与えることも大切です。「みんなの意見をまとめようとしたのは誰かな?」「ほめるとグループがのってくるよね。」「まわりがうなずきながら聞いてくれると、安心して話せるよね。」「よく聞かないとできないよね。」など、様々な言葉かけをします。

重枝先生のクラスでは、20分くらいで答えがわかったチームもあったようです。日頃からの積み上げが、メリハリのあるクラスの雰囲気をつくっているのだらうと、ビデオの様子から感じ取ることができました。

3 エクササイズの体験活動

「なぞのマラソンランナー」

ねらい・・・「積極的に貢献する力・タイムリーなコミュニケーション力」

まず参加者で、6人グループをつくりました。班長を決めて、重枝先生のところに集まります。私達も生徒と同じように、シーンとして、先生のつぶやき声を聞きました。この落ち着いた雰囲気は、集中力を高めてくれるようないい意味での緊張感があります。心地よいものでした。

班長がもどって来て、カードが1枚ずつ配られました。メモ用紙も1枚配られました。カードは他の人には絶対見せてはいけないので、他の人に隠すようにして自分のカードを見ました。ゼッケン番号をつけたマラソンランナーが真ん中に、左右のはしっこには、うでの一部や足の一部、髪の毛の一部が見えます。自分のカードの前後にマラソンランナーがいます。誰のカードとつながっているのか?お互いの話を結びつけないとわからないのです。背景の山や雲にも意味がありそうです。そんなことを考えていると、重枝先生から指示が来ました。「まずは上級者向けで、絵は描いたらダメ。字は書いてもいいことにします。始め。」活動開始です。

まずは1人ずつ、自分の絵の説明を始めました。このエクササイズは、初任者研修で行ったことがあったようで、6人中2人がやったことがあると言っていました。話し始めると、この2人の絵がつながっている、この2人も・・・というのがわかってきます。この順番かな?と思ったところで、重枝先生の指示が入ります。「簡単な絵は描いてもいいことにします。」さっそく、メモ用紙に、絵も描きながら情報をつなげていきます。だいたいこの順番かな、というところで自信はないけど「せーの、できた～」と合図。しかし、「答えが違う。まず、最初の人から違う」と言われ、もう一度やり直します。

背景を頼りに、山がつながっている人、家がつながっている人・・・というように、情報をつ

なげていきます。しかし、1枚のカードだけがうまくつながりません。そのカードが先頭かな？ということで再度「できた〜」。しかし、またまた正しい答えになりませんでした。他のグループができていくと、何となくあせってきます。悔しいながらも時間切れ。結局、やったことのある人が3人もいたのに、答えにはたどりつけませんでした。敗因は何だったのか???

それは、今回のねらい「積極的に貢献する力・タイムリーなコミュニケーション力」が足りていなかったから! ?ももっとも積極的に貢献できたのに、と思う場面は正直言っていました。少し遠慮してしまった場面があったようにも思います。タイムリーに発言する力。つまり、他の人の情報を聞いて、関連する情報をすぐに伝えること。他の人が話しやすい雰囲気をつくること。もっと質問して話を引き出せばよかったなどなど・・・。ややコミュニケーション力が弱かったのかもしれませんが。積極的にコミュニケーションをとらないと、絶対に答えにたどりつかないのです。これは確かに「上級者向け」のエクササイズだと納得です。

答えがわかれば、「達成感」「満足感」があるのですが、悔しさから敗因を探ることも、意味があるように感じました。生徒も同じかもしれません。「上級者向け」ということを強調して、ねらいを実践できるかどうかを確かめる、ハードルにもなる内容です。

重枝先生は言います。生徒達が劇的に変わることはない。しかしスパイラル的に積み上げていくことは無駄ではない。意味がある。ビジョンがあれば、あわてず小出しにできる。日常の何につながるかという視点をもって。生徒と教師のリレーションをつくるためにも、生徒から自分はどう見られているのか、勇気をもって知る必要があると。

重枝先生の魅力のひとつに「ことばのセンス」があります。キーワードで落とし込むことによって、ストーンと腑に落ちるといえるか、説得力が増します。

例えば、「お互いが教科書」という発想は、的確で鋭いので、強烈な印象を残します。一度きけば忘れないうえに、言いたいことがすべて伝わるという説得力の強さを感じます。特に感性の鋭い中学生には、効果的であると思います。そういう「キーワード」を生み出すセンスを見習いたいです。「お誕生日おめでとう」の中での板書「ひとりでは見えないことが必ずある」や「No pain No gain」も同じ発想だと思えます。

もうひとつの魅力は「自然体」です。気負いが無いというか、力んでいないというか、その仕事ぶりも、この風土会も、とても気楽なムードです。「風土会」は先生方も同じでしょうが一番疲れている金曜日の19:00からという時間帯です。重枝先生も千代中学校勤務ということで、きつとかなりの疲れがあるのですが、それを感じさせない楽な感じ。だから参加される先生方も疲れを忘れ、楽しく学ばれています。「今日も元気をもらいました。」という感想は、必ず誰かが書かれています。その醸し出すムードが「陽」であり「楽」なのです。それは、「学級通信」(学年だより)にもあらわれています。11月4日現在で53号という驚異的な数を発行されていますが、内容はとても「自然体」。エクササイズをしたら必ず書くという通信。授業が終わって書き始めて、絵に一番時間をかけて5分。帰りの会では配っている。気楽に書かないとストレスがかかるから、とのこと。今回は3枚の通信が資料として配布されましたが、どれも楽しい絵が描かれていて、内容もステキです。タイトルが「お互いが教科書」「ジョハリの窓」「なぞのマラソンランナー」。ワクワクします。重枝先生自身いつも言っていますが、決して上手とは言えない手書きの文字。今時、パソコンを使わないのはめずらしいかもしれません。しかし、手作りのあたたかさがあります。先生の持ち味やカラーがにじみ出ています。自分をさらけだせる、「自己開示」できる強さ。「自己点検できる勇気」につながっています。

今回の学習会のキーワード

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| ○PM理論 | ○自己点検を勇気をもって |
| ○ストラテジー(戦略) | ○ルールとリレーション |
| ○お互いが教科書 | ○ひとりでは見えないことが必ずある |
| ○ジョハリの窓 | ○積極的に貢献する力 |
| ○自己盲点 | ○タイムリーなコミュニケーション力 |
| ○つながりに気づく | |
| ○「No pain No gain」 | |
| ○ザ・ベストを強いるよりもみんなのマイ・ベストを求めよう | |

- ・今回初めて参加させていただきました。大きな声では言えませんが、他の研修よりも具体性がある、わずか60分の中で多くを学ばせていただきました。今まで理論は分かっていても、それをどうクラスに実践していくか、雰囲気作りに悩んで実行できないでいました。ですが、先生のクラスでのビデオや実際にゲームをする中での言葉掛けから、「空気」の持ち方や持たせ方を知ることができたのが一番でした。また、班での紙サイズ、筆記用具の本数、リーダー指示の時の配慮など、細かい点も教えていただき「気づき」を得て帰ることができます。次回また参加させてください。すでに待ち遠しいです。会報もいただけたら幸いです。今日はありがとうございました。
- ・大変おもしろかったです。私自身も初めて会った方との実践で交流をもて、距離が近くなったような気持ちになり、ほっこりとあたたかい気持ちになりました。生徒もこのようなエクササイズを積むとだんだんと関係がよくなるだろうなという展望をもてました。少しずつ実践し、積み重ねてみようと思います。ありがとうございました。これからもよろしく願います。
- ・内容もですが、終わった時にととてもすがすがしい気持ちになりました。「おもしろい」「そうか」と思うことが多かったからだと思います。「こんな授業をしてみたいな」と思いました。勉強になりましたし、なんだか元気をもらえました。ありがとうございました。
- ・前は2人連れてきましたが、今回はまた2人増です。明日(オープンスクール)で「ルールとリレーション」「お誕生日おめでとう」を学年で取り組む予定です。職員の研修で使わせていただきました。「ザ・ベストよりマイ・ベスト」なるほどです。ザ・ベストでいこうとする(してきた)から疲れるのですねえ。毎回、目からウロコです。
- ・スパイラルを意識して実践に取り組むことで、ひとつひとつが積み重なる学級経営ができるのだと感じました。リレーションを今まで考えずに、どのようにルールを守らせればよいか悩んでいましたが、ルールとリレーションの図と説明がとても良いなあと思いました。
- ・2回目の参加です。慣れて楽しくなりました。前回の風土会で重枝先生から学んだことを、「まるで自分の考えのように」話しました。急に生徒をひっぱる力がつきました。
- ・今日もわかりやすい説明とエクササイズありがとうございました。ビデオの中で先生が話されている言葉や、途中でも評価するということが心に残りました。何気なく話す言葉は生徒の心にしみ込んでいくと感じました。その言葉の積み重ねが、子どもを変えていくと思いました。
- ・「なぞのマラソンランナー」がとてもおもしろかったです。生徒にルールを守らせてやらせてみるにはハードルが高いなと思いましたが、このゲームができるクラスをつくってみたいと思いました。
- ・実際にとっている行動が文字化されていて、自分がどのように行動していけば良いかがわかりました。今日のエクササイズもすぐ使えるもので、グループ作りやリレーションにとっても役立つものだと思います。毎回参加するたびに、とてもいい経験をさせていただけるので楽しみです。本日はありがとうございました。
- ・今日もとても楽しく勉強させていただきました。子ども同士のコミュニケーションづくり、関係づくりについて考えさせられました。なかなか子ども同士で関係がつかれないので、こんなエクササイズをすることで楽しく関係がつかれたらと思います。前回の風土会の後、学年でグルーピングをしました。生徒達も楽しみながらも少しは人間関係について考えてくれたのではと思います。またぜひやりたいです。ありがとうございました。